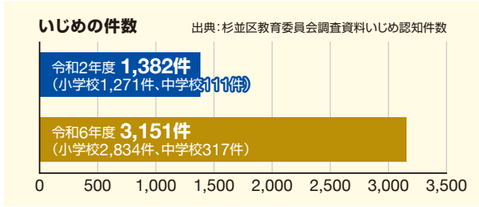
劣化する杉並の教育環境

皆さんご存じですか。現区政になって4年、今杉並区の教育が大きく揺らいでいます。
その現状と対策を前区長の田中良さんに伺いました。

田中良：以前、杉並区は教育区として有名でしたが、最近は教育の低下をよく聞きます。その現状を見てみましょう。

■いじめ：急増するいじめ、重大事態案件も増加。※重大事態案件は、前区政時代は1件でしたが、現区政になって令和5年～7年度の3年間で11件。
■学童クラブ：小学生の学童クラブの待機児が512名で全国ワースト1位に。（令和7年こども家庭庁調査）
■教育環境：①移動教室の事業を旅行会社に丸投げ（令和6年）、②小学校の移動教室の事業を民間の旅行業者に委託、富士学園をインド系ヨガ団体に売却（令和7年）、③杉並区の子どもたちの移動教室や区民の利用で親しまれてきた山梨県忍野村の富士学園を入札で売却（2億7千万円）



教育現場の混乱に終止符を

――どうしてそんなことになっているのでしょうか。

田中良：私は教育についての区長の責務は、基本的に教育の内容は教育委員会に任せ、区長は子どもたちが良好で安全な環境で学べるようにするべきと考えています。そこで就任後すぐに**小中学校へのエアコン導入**を行いました。

ところが現区長は、長年杉並区の移動教室を行ってきた**富士学園をインド系のヨガ団体に売却、移動教室を丸ごと民間の旅行業者に委託**するなど長年培われてきた教育環境を破壊し、他方で教育の多様化や子どもの権利などの教育内容に介入してきました。

こうしたことが教育現場に混乱をもたらし、緊張感がなくなってきているのです。「何とかしてほしい」という現場からの声を多数いただいています。

――「杉並の教育を取り戻す」ということですね。

田中良：そうです。昨今修学旅行などでもいろんな事件が起きています。移動教室を丸ごと民間委託など考えられません。

未来を担う**子供たちが安心して良好な教育を受けられる**ように全力で取り組みます！

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）5月　〒167-0043 杉並区上荻1-9-1 荻窪タウンセブンD棟1F
TEL／03-3301-3301　FAX／050-3537-2249　Mail／ryotanaka1960@gmail.com

田中良 サポーターズ通信 Vol.1

全国が注目！ 田中前区長のリーダーシップで出来た
河北総合病院の移転改築！

一日も休業することなく病院を移転――河北総合病院移転改築に思う

昨今、老朽化した病院の改築が頓挫し閉院したというニュースがある中、7月1日に河北総合病院が移転改築を終え、新病院としてスタートしました。これは田中良前区長が在任中に手掛けた「阿佐ケ谷駅北東地区まちづくり」によるものです。

現在の岸本区長は区長選挙ではこの計画の白紙撤回を叫ぶ人達と連帯していました。

そこで、ここに至る阿佐ケ谷駅北東地区のまちづくりについて田中良・前杉並区長にインタビューしました。

田中良・前杉並区長インタビュー

杉並区民にとって素晴らしいプレゼント――河北総合病院の改築

―― 今、多くの自治体では老朽化した病院の建替えが進まず、お隣の武蔵野市では大変な事態になっていると聞きます。この背景には何があるのでしょうか?

田中良：病院の経営は大変です。例えば、**14ある東京都が経営する都立病院等の赤字は年間700億円で都政の最重要課題の一つ**になっています。赤字の原因は、コロナ禍による一般患者離れがなかなか回復して来ない中で、人手不足による人材確保のための費用負担が増えていることがあります。医療収入は公定価格なので、この人件費負担はかなりこたえます。それに加えて、資材の高騰による建設費の急騰が拍車をかけ、病院の改築はとても困難な事業になってきています。

―― こうした中で、杉並区では河北総合病院の移転改築が進み、7月から新しい病院がスタートしました。この計画を杉並区長時代に手掛けた田中さんの感想をお聞かせください。

田中良：河北総合病院は、杉並区で最も規模の大きな病院で地域医療の中核です。その**病院の運営を維持しながら新病院を建設**することが出来て、本当に良かったと思います。特に、資材高騰の中でも改築を計画通り進めてきた病院関係者の方々に敬意を表したいと思います。私は、**河北総合病院の改築と杉並第一小学校の移転改築**を実現するための**「阿佐ケ谷北東地区まちづくり計画」策定の判断が間違っていなかった**ことが、これからひとつひとつ可視化されていくと思っています。

中面へ

移転前の河北総合病院

どんなやり方で移転改築が出来たのか
同じ地域の二つの老朽化した施設を地区計画で整備

―― 河北総合病院の近くには杉並第一小学校（杉一小）があります。「同じ地域の二つの施設をそれぞれが一日も休むことなく改築する」ということは本当に難しいと思います。どのようにして、この移転改築が可能になったのでしょうか?

田中良：病院と小学校の運営を維持しながら、新病院と新校舎を建設する。通常これを実現するためには、それぞれが**既存施設と別の土地に仮設施設の建設**が必要になります。

加えて、**杉一小は敷地が区内で最も狭い小学校**です。そのため、仮設校庭(グラウンド)も必要です。

つまり、**通常のやり方**では

①仮設病院や仮設校舎･校庭の用地を確保
②その土地に仮設施設を建設する
③仮設施設に病院事業と学校教育を移す
④既存施設を解体してそこに新施設を建設
⑤新施設が竣工したら、事業を仮設施設から新施設に移動
⑥最後に仮設施設を解体

という順番になります。この仮設施設を経る手法はとても高コストで時間もかかります。

しかし、**「阿佐ケ谷駅北東地区まちづくり」は仮設施設を一切用いずに移転改築する計画**なのです。それを可能にしたのが、いわゆる「けやき屋敷」の地主Aさんの協力です。

事態を好転させた「けやき屋敷」の用地提供

―― 「けやき屋敷」提供に至るまでの経緯をご説明ください。

田中良：杉並第一小学校と河北総合病院との間には、地主のAさんが所有する**「けやき屋敷」**があります。老朽化した病院も小学校も従来通りの運営を継続しながら、移転改築を可能にするには、この「けやき屋敷」にどちらかの施設を移転する必要があります。それは数百年にわたって「けやき屋敷」を所有してきたAさんにとっても大変なことです。これは**至難なこと**だと考えられていました。

―― なるほど、それで河北総合病院も杉一小もそれぞれ独自に建て替えを模索してきていたのですね。

田中良：災害連携病院として位置付けられている河北病院は、耐震構造に大きな問題があり、災害時を想定すると一刻も早く取り組まねばならない**公共性の高い緊急課題**を抱えていました。当初、河北病院は全面移転を視野に入れた土地探しもしていたのではないかと思いますが、容易に適地は見つからないようでした。また、現地建て替えとなると**仮設施設の確保**とそれに伴う**事業費の膨張**が**最大の難題**だろうと私は見ていました。

一方で、杉並区立杉並第一小学校は耐震補強工事こそ済ませてありますが、**老朽化による建て替え時期**を既に迎えています。
しかし、河北病院の建て替えと同時期に工事が重なったら、工事車両や騒音など工事による地域への負荷が重くなるので、発注時期などの調整が必要だと心配していました。

それでも河北病院の建て替え計画は一向に煮詰まりません。そこで区としては、小学校の建て替えを先行しようと一旦決めたわけです。

杉一小は、学校の敷地が区内最小の面積のため、改築の為に校庭に仮設校舎をつくると、校庭がほとんど確保出来なくなります。そのため、地主Aさん所有の近隣駐車場を仮設校庭として借り、新校舎の基本設計に着手するなど着々と進めていきました。ただ、たとえ現地建て替えを実現出来ても、学校の敷地面積が小さいため、他校と比べてあまりにも狭い校庭しか確保出来ないことが、子どもの教育環境を考える上で悩ましい点ではありました。

そんな時に、都心の方で、建ぺい率を最大限に活かして屋上に広い校庭を確保しようとする学校が現れたという報道もあり、我々も屋上校庭案を考えてみたらどうだろうかとなったわけです。
災害時の避難所としては、屋上よりも地面の校庭の方がいいに決まっています。子どものために屋上の広さを取るのか、避難所として狭い地面を取るのかという悩ましい問題の中で、**屋上校庭案**を選択したことはまさに苦肉の策であり、苦渋の選択だったのです。そして、この案を持って、地元関係者へ説明に入っていきました。

するとその矢先に、河北理事長と地主Aさんが揃って私に面会を求めてきて、なんと**Aさん自身が所有する「けやき屋敷」を病院建て替え用地として提供する**という、これまでに無い建て替え案を示して来たのでした。

画期的だった「阿佐ケ谷駅北東地区まちづくり」の実行

―― それで阿佐ケ谷駅北東地区まちづくり」を策定することができたわけですね。

田中良：そうです。でもそれを行うためには、**杉並区、河北総合病院、地主のAさんとの間の信頼関係が不可欠**ですし、地元の理解も大切です。いったんスタートしたら後に戻ることはできません。この計画を進めるべきか否か、当時関係する部署の職員を一堂に招集して全員に意見を聞きましたが、たった2人を除いて皆が「本当にできるのか」と躊躇し、反対しました。

しかし、私には**これしか道はない、やるべきだという確信**があり、計画実行の決断を致しました。

その判断が正しかったことは、散々この計画を批判していた岸本聡子･現杉並区長自身が**計画の「優位性を認め」ざるを得なかった**ことを見ても明白だと思います。

そして今、河北総合病院の新しい病院の姿を見るにつけ、その思いを新たにしています。

用地提供により方針転換した地区計画への反響

―― 学校の改築を現地建て替えで決定した後の地元への説明の反響はいかがでしたか?

田中良：いったん小学校の屋上校庭案で地元関係者に根回しを始めながら、唐突に三者協定によるまちづくりへ方針転換するということは、覚悟はしていましたが、案の定、様々な疑問や批判を招くことになりました。

実現可能性への不安や、病院への利益誘導ではないか、小学校を移転する予定の病院跡地は土壌汚染が心配だ、ハザードマップにある水害リスクが高いところになぜ小学校を移転するのか、多くの木々を伐採し自然を破壊する開発だ、等々と区議会も含めて疑問や反対論が叫ばれました。突然の方針転換に加えて、病院と小学校の移転改築という大胆な構想だっただけに、無理もないことだと受け止めていました。

だからこそ、それらの**疑問の一つ一つに丁寧な説明を繰り返すよう、私も区職員も誠意を持って努めました。**

―― 「けやき屋敷」の緑の保全についてもいろいろな意見がありましたね。

田中良：もともとJR阿佐ケ谷駅至近のAさんが所有する「けやき屋敷」一帯は、それを取り巻く木々や緑におおわれた、今どき本当に稀有な環境を持ち、地元に親しまれてきた土地です。ですから私としても、可能な限りこの緑を残す方法は何かないかと模索し始めたわけです。

言われなき誹謗中傷やデマとの戦い

―― 先日、新しい病院の周辺を歩いてきたのですが、昔の蔵が保存されていたり、うっそうとした樹木があったりと色々な工夫がされているのがよくわかりますね。でもそのような努力とは別に、いわれなき誹謗やデマも多かったのでは?

田中良：私が**全く言ったことも考えたことも無いようなデマが流布された**のにはいささか呆れました。例えば、小学校を移転させた跡地に大型商業施設を誘致しようとしているとか、タワーマンションを建てる計画等々です。

我々がさも大型商業施設を目論んでいるかのように噂を流布することで地元商店街の方々の不安を煽り、味方に取り込もうとする某党の政治的意図が見え見えなのですが、私自身が議会で何度も否定しているのに、そのことは全く商店街には伝えずに、いつまでたっても執拗に繰り返していました。

―― それはひどいですね。

田中良：タワーマンション云々も、私を含めて区の幹部も一切考えてもいないし、話題にさえなったこともないのです。まさに「捏造」そのもので、確信犯のなせるわざとしか言いようがありません。

区議会でも、私が河北総合病院に百億円の利益誘導をしているとか、私の後援会が主催している「田中良区長を囲む会」（政治資金パーティー）の発起人のひとりに河北理事長が名を連ねているのは癒着だとか、政策論とは程遠い、こじつけや捏造で人権侵害とも言える誹謗中傷を声高に繰り返し叫ぶ人もいました。私は29歳で初めて選挙に出て以来、区議→都議→区長と地元で政治活動をしてきました。この間に河北理事長やAさんとも面識はありますし、河北理事長とは都議時代から様々な場面で医療政策などについてお話しを聞く機会もありました。

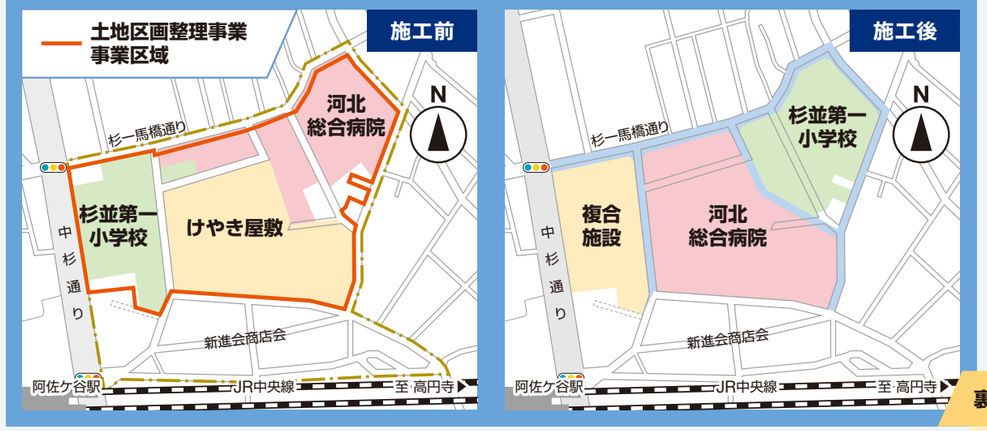
河北総合病院の改築にあたり用地提供をいただいた「けやき屋敷」のAさんとは、若い頃に青年会議所の活動に私がお誘いした経緯もあり懇意にしてきましたが、癒着などと指弾されることは全く身に覚えがありません。

その他、選挙の度に政策論争ではなく、特定の政治勢力から私に対する個人攻撃や人格攻撃が繰り返しなされてきました。
しかし、私は自分が進めていることが必ず地域社会のために、区民のためになることだとの信念は揺らぎません。ですから、目標に向かってブレることはありません。

もし、区のトップとして私の姿勢がブレたら職員もブレてしまいます。そうなれば仕事の効率はマイナスに作用することになりかねないというのが、公民問わず組織の常というものではないでしょうか。

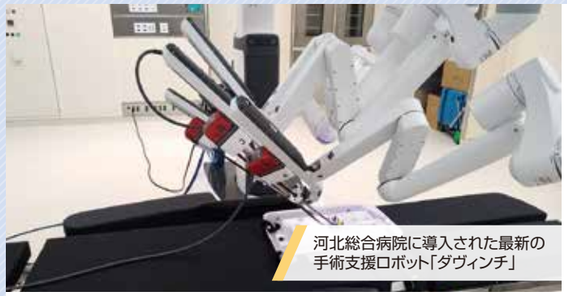
JR阿佐ケ谷駅北口駅前から見た阿佐ケ谷駅北東地区

「阿佐ケ谷駅北東地区まちづくり」施工前と施工後の比較



裏面へ

田中良サポーターズ通信 Vol.1【河北総合病院】　令和7年9月発行



河北総合病院に導入された最新の手術支援ロボット「ダヴィンチ」

困難を切り開くリーダーシップ
～まちづくりに必要なもの～
道路整備とも関連する河北総合病院の移転改築

―― 田中さんは、新しい河北総合病院の竣工式に出席されたとのことですが、いかがでしたか?

田中良：素晴らしいですね。写真でもご紹介しますが、最新鋭の手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」をはじめ、先端医療機器が多く導入されていました。地域医療の支援施設として本当に頼もしい限りです。

―― 今回の河北総合病院の移転改築は、道路の整備やまちづくりという点から見て、どのように評価されていますか?

田中良：阿佐ケ谷駅北東地区まちづくりでは、先ずは杉並区と移転先の地主Aさん、そして河北総合病院の三者が共同施行者となり、土地区画整理事業の計画を策定しました。

この7月の河北総合病院の移転改築に伴い、計画エリアの利用価値を高める為の道路付替えや拡幅が行なわれ、エリア内の土地が整備されます。

これにより、**道路の安全性と地域の防災力は格段に向上**し、年間約9,000台、毎日20～30台にもなる中杉通りからの救急車の搬入路もしっかり確保出来るようになります。

これまで、中杉通りからの救急車の搬入路は、商店街の狭い一方通行路だけでしたが、もし直下型地震が発生して電柱が一本でも倒れたら、確実に通行不能になることが懸念されていました。

“まちづくりは道から”
～阿佐ケ谷百年の計～

―― なるほど、まちづくりは施設だけでなく道路の整備と大きく関連しますよね。

田中良：そうです。**まちづくりの最も重要な基盤になるものは道路の整備**です。その理由は、土地はどの様な道路に接道しているかによって活用の幅が決まり、どの様な道路ネットワークに繋がっているかで、その土地の魅力が違ってくるからです。**「まちづくりは道から」**と言われる所以です。

―― その意味では、今回の河北総合病院の移転改築は、阿佐ケ谷駅北東地区まちづくりの第一段階と言えますね。

田中良：阿佐ケ谷駅北東地区まちづくりは、河北病院の移転で終わりではありません。

区画整理、杉並第一小学校（杉一小）移転の後は、杉一小跡地をどうするのか?　**阿佐ヶ谷百年の計**は、まだ始まったばかりです。私は、杉一小の隣接する商業施設と銀行を含む街区での整備へ向けて、**今こそ区が調整役を担うべき**だと考えます。

区のトップに求められる
リーダーシップと責任

田中良：その際に大切なのは、トップが決して**「はしごを外さない」**ことです。

一度決定したら、その内容に間違いがない限り、「必ずやり抜く」という**ブレない姿勢が大事**なのだと思います。

それが、**将来世代のために、私たちの世代が背負う「世代の責任」**だと信ずるからです。

今回の河北総合病院の移転改築はその第一歩だと思います。

田中良
前杉並区長
プロフィール

昭和35（1960）年	杉並区生まれ
	杉並ひまわり幼稚園卒
	杉並区立桃井第五小卒
	獨協中・高卒
	明治大学政治経済学部卒
昭和59（1984）年	株式会社テレビ東京入社
平成　2（1990）年	衆議院選挙出馬するも惜敗
平成　3（1991）年	杉並区議会議員選挙に最年少・最高点当選
平成　5（1993）年	東京都議会議員選挙当選 以後連続5期当選
平成21（2009）年	東京都議会議長 就任（48歳 歴代最年少）
平成22（2010）年～	杉並区長に当選
平成26（2014）年～	再選（2期目）
平成30（2018）年～	再選（3期目）
令和　4（2022）年	杉並区長選187票差で惜敗
令和　5（2023）年	・著書「公文書に載らない東京都政と杉並区政」を刊行
	・自治体にまつわる様々な問題についてマスコミ等で発信中

田中良の政策がわかる・伝わる!
田中良サポーターズ公式noteを開設しました!
note

田中良サポーターズ公式SNS
instagram　X　Facebook

編集・発行：田中良サポーターズ　令和7年（2025年）9月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内　TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360
Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

田中良サポーターズ通信 Vol.2【富士学園売却・学童クラブ待機児童】　令和7年11月発行

あの富士学園が売却に! ヨガの団体に約2億円で売却!

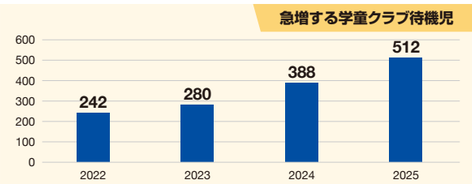
東吾妻の自然村は3,500万で民間に売却!
区民の貴重な財産を手放す岸本区長の経営感覚。

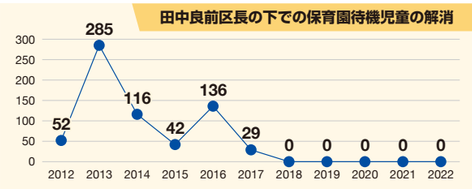
皆さん、山梨県の忍野村にある**富士学園**をご存じですか。長年、杉並区の小学生の移動教室で親しまれてきた施設で、移動教室がないときには区民の保養施設としても利用されてきました。この富士学園を岸本区長は、なんと**約2億円でヨガの団体に入札で売却**するのです。信じられますか。忍野八海に隣接し、富士山を眺望する一等地の富士学園を約2億円で売却、**杉並区内では30坪の戸建て2個分のお金で入札**とは全く理解できません。

田中前区長は次のように述べています。「校外施設は、子どもたちのみならず区民にとっても大切な施設です。私は区長の時にこうした施設の売却はやらないように指示してきました。ところが岸本区長は私がいなくなった半年後にこうした計画を決めたのです。」インバウンドで今後の移動教室が安定継続できるのかという不安に加え、ホテルの宿泊料金が高騰を続ける昨今、区民が家族で安価で利用できるこうした施設をなぜ売却するのか理解に苦しみます。

学童クラブに入れない! 一刻も早い待機児童の解消を!

杉並区の学童クラブ待機児問題が深刻です。令和6年度の待機児童数は388人で23区ワースト3位。令和7年度は512人にのぼりました。





Q：どうしてこんなことになったのですか?
A：児童館で近年需要が急増しているのが学童クラブと乳幼児親子の居場所です。逆に中高生の利用は平均すると一館たったの2人。そこで田中区政では中高生を切り離し、その分のスペースを需要が高まる学童クラブ等に振り分けようと、**18歳未満の全てを受け入れている既存の児童館機能を見直す方針**を打ち出しました。ところが岸本区長は区長選挙でそれを、「児童館をつぶして子どもたちの居場所を奪う」と激しく批判。しかしいざ当選したものの、自らに確固たる対案も無く、何も有効打を打てずにいるわけです。

Q：田中良さんなら学童クラブ待機児解消ができますか。
A：できます! 田中良さんは、リーダーシップを発揮し、社会問題だった保育園待機児をスピーディーに見事解消しました。このままだと翌年には560人の待機児がでると言われた時、直ちに**「保育緊急事態宣言」**を発し認可保育園の大幅増設をはかり、**2年後の平成30（2018）年に見事、待機児を解消**したのです。それ以降、保育園待機児はゼロを続けてます。田中良さんは、児童館は勿論、学校や民間も含めた地域の施設の有効活用で学童待機児童ゼロは達成できると述べています。

編集・発行：田中良サポーターズ　令和7年（2025年）11月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

田中良 サポーターズ通信 Vol.3

都市農業の振興で住宅都市杉並の付加価値を高める

―田中区政の実績と今後の杉並区の農業振興のために―

杉並区農福連携農園「すぎのこ農園」（公式サイトより引用）

農業振興への思い

杉並の住宅都市としての魅力を高める上で、都市農地は欠かせない存在です。
私は杉並で生まれ育ち、通学路に田んぼや畑、屋敷林が広がる環境の中で育ちました。こうした農地のある風景は、地域の落ち着きや豊かさをつくり出していました。
農地は100ヘクタールから現在の30ヘクタール以下へと減少していますが、この貴重な農地を守り、次世代へ引き継ぎ、都市農業を振興していくことは、私の長年のライフワークです。

すぎのこ農園収穫体験の様子（公式サイトより引用）

田中区政の主な実績
農地の防災活用から地産地消まで

都市農業の価値が見直される中、田中区政では農地を守り活かすため、次の取り組みを進めてきました。

1. 防災兼用井戸の整備

都の補助を活用し、在任中に 22 カ所の防災兼用農業用井戸を設置。災害時にも地域を支える農地活用を進めました。

2. 認定農業者制度の創設

平成 28 年度に制度を立ち上げ、現在の 25 名（19 経営体）のうち 23 名（18 経営体）は在任中に認定。農業者の計画的経営や意欲向上を後押ししました。

3. 体験農園・農業公園の整備

井草（120 区画）、今川（81 区画）の体験農園を開園。園主による指導のもと、地域住民が農に触れられる場を広げました。
また、相続発生を機に農地を取得し、「成田西ふれあい農業農園」を区民参加型で運営。

4. 農福連携農園「すぎのこ農園」

農業と福祉を連携した新モデルとして整備。保育園児や障がい者団体が参加し、収穫物は福祉施設へ供給しています。
さらに区内最古の古民家（井口家）を移築・復原し、農の風景と文化を未来へ継承する拠点としました。

未来に向けた、田中良の提案
―農地の継承と生産活動の活性化を促す仕組みづくり―

これからの杉並区の都市農業には、都市農地が地域社会に親しまれる存在になることが大事だと考えます。地域住民が農地を、好意的に積極的に評価してくれることが、住宅都市としての付加価値を高めていくのです。

・高齢化や病気などで耕作が続けられなくなった際に農地を引き継ぐしくみ
・収穫物の買い取りなどの循環づくりなど、生産意欲を高めるための支援策

こうした“ 農地を守り、使い続ける ”ための制度が必要です。

今後も農家の皆さんと共に、農地の保全と生産活動の活性化に取り組み、杉並区の都市農業を未来へ引き継いでいきたいと考えています。

田中良の政策がわかる・伝わる！
田中良サポーターズ公式note を開設しました！
note

田中良サポーターズ公式SNS
instagram　X　Facebook

世代の責任を果たそう。

世代を超えて、今あらためてお伝えしたいメッセージです。

二十歳の皆様、誠におめでとうございます。立派に成長された皆様に、心からお祝いを申し上げます。

私は「すべての人たちにすべての世代の責任がある」と思っています。責任を果たすことから逃げれば、責任から目をそらしてしまえば、次に続く人たち、次に続く時代にツケを回してしまうことになる。そう思うのです。

法律上の責任だけではなくて、世代の責任を考える人になってほしいのです。そうして、次の世代へバトンを手渡してください。未来は皆さんのものです。

祝・5,134人が杉並区で二十歳。

2005年4月2日～2006年4月1日に生まれた皆さん（2025年度中に二十歳を迎える方）は5,134人です!

2021年「二十歳の集い」は杉並区だけで開催。

「成人式は人生で一度限り」田中良の頭から離れなかった言葉です。コロナ禍の2021年でしたが、杉並区は23区で唯一、二十歳の集いを開催。二十歳の皆さんもそれに応えて徹底した感染対策に協力して下さいました。

誰一人感染者を出すことなく無事に二十歳の集いは挙行されました。杉並区にとり忘れられない出来事です。

ひと

「反金権」で街頭に立つ
明大雄弁部の幹事長
田中良（たなかりょう）

ノンポリ、無気力ときめてかかってはいけない。行動派の学生もいた。明治大学雄弁部の約四十人。「ストップ・ザ・構造汚職・金権政治」のキャンペーンで、連日街にくりだしている。幹事長は声がかすれぎみ。

「街頭でしゃべるのははじめてなんで、慣れてきたというよりみんなくりと説得調を心がけて。

「単に反角栄ではない。戦後の疑獄史をみれば、田中断罪で終わる問題とは思いませんね。権力者が代わるだけでやってることは同じでは困るんです」

三月から準備にかかり、政治倫理の研究会を何回も。部長（教授）からは外で訴えるより内面的にやれ、と忠告された。

「それもよくわかるが、ぼくは性分というか、行動しながらいいとか悪いとか悩むうちにきたえられると。やはり直接のきっかけはロッキード事件。あのころ目白の田中邸の前をスクールバスで通ってましたから」

雄弁部の先輩には三木武夫、木村武雄、故人では大野伴睦、真鍋儀十氏ら。三木氏のころは旧満州、米国まで遠征遊説したという。ところで支持政党は。

「特にありません。自民党はあまり好きじゃない。センスが違うな、という気がしてなじめない」

政経学部三年、産婦人科医の長男で、精かんな二十一歳。（岩見　隆夫）

疲れが出てきた。しかし、やってよかったです。『うるさい』という人もいたけど『もっとガンガンやんなさい』ってカンパしてくれたり、あるお年寄りの女性は『もう（金権候補は）選ばないようにしますよ』と声をかけてくれた」

八月二十七日を初日に二十日間、東京、埼玉、千葉の首都圏ターミナル約六十カ所で。渋谷駅前だけは毎日夕方。OBに拝借したワゴン車の上から、交代でマイクを握る。ゆっ

毎日新聞（1982年9月11日）

今でも変わらず街頭に立つ。【夏】

好んで人の輪の中へ。【冬】

田中良 二十一歳、「政治刷新」のため街頭に立つ

田中良は、二十一歳の頃、腐敗した政治にガマンがならなく、「ストップ・ザ・構造汚職・金権政治」を掲げ、仲間と共に政治刷新を街頭から訴え、人々と対話を繰り返しました。その姿は「行動派学生」と、当時大変なインパクトを内外に与えました。

記事を書かれたのは、毎日新聞論説委員、サンデー毎日編集長などを歴任された、高名なジャーナリストの故岩見隆夫氏です。

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）1月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

少子化対策を次のステージに!

安心して子どもを産み育てる環境の整備を

子育て施策の充実は、いま最も重要な政策課題です。杉並区の高齢化率（65歳以上人口の割合）は21%と、東京都平均（23%）、全国平均（29%）を大きく下回っています。これは、この10年で子育て世代が杉並区に流入してきた成果でもあります。

その背景には、都心への交通アクセスの良さに加え、田中前区政のもとで実現した保育園待機児童ゼロや、「子ども・子育てプラザ」をはじめとする子育て支援策の充実がありました。

子育て中の親に寄り添う

核家族化が進み、地域とのつながりが薄れる中、子育て中の方が一人で悩まない環境づくりが欠かせません。田中前区政では、乳幼児を連れて気軽に訪れ、相談や交流ができる「子ども・子育てプラザ」を整備し、現在は区内7か所で運営されています。こうした親の孤立を防ぐ取り組みは、今後さらに充実させる必要があります。

小児救急医療と病児保育の充実

子どもが病気になった時の不安を軽減するためには、小児救急医療体制の維持が不可欠です。そのためには医師・看護師を安定的に確保する予算措置が必要です。また、病児保育についても医療機関と連携し、現在5か所で実施されている体制をさらに拡充するとともに、東京都のベビーシッター利用支援事業などと連携した在宅での病児保育の充実が求められます。

出産一時金の増額と雇用復帰支援

少子化対策と子育て支援策は関連していますが、目的は異なります。少子化の背景には、晩婚・晩産化という社会構造の問題があります。女性の初婚平均年齢、第一子出産平均年齢はいずれも30歳を超えています。改善のためには、20代で安心して出産を選択できる環境づくりが必要です。

そのためには、出産一時金のさらなる増額が有効です。国の制度に加え、自治体が上乗せ支援を行い、若い世代ほど手厚くする仕組みも検討すべきです。

子育てと仕事を両立できる社会へ

育児休業制度は期間・給付の両面で一層の充実が必要です。また、20代で出産・子育てを経験した方が、30代以降に正規雇用で社会復帰できる雇用環境を整えることが重要です。若いうちに結婚・出産・子育てを選んだ方が、経済的にもキャリア面でも希望を持てる社会をつくることが、真の少子化対策につながります。

子育て世代の目線でまちづくりを

ベビーカー利用や公共交通の使いづらさなど、子育て世代の視点で街や公共施設を見直すことも重要です。駅のホームドア整備などのハード面に加え、講座や会合の時間設定などソフト面での配慮も求められます。

子育て世代が「住み続けたい」と思える街こそ、未来に希望を託せる街です。杉並区には、東京都と連携し、若い世代が将来を描ける社会モデルを先行して示す役割があります。

子ども・子育てプラザ善福寺

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）2月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

浜田山駅南口開設の早期実現を！

Q：田中さんが区長の時に、南口開設は目前だったのですね。
A：そうです。ここは通勤時に踏切で立ち往生する方も出るような所です。切実な地元の要望で、私は2022年3月に区と京王電鉄との間で**「浜田山駅南口整備事業に関する基本協定書」**を、同年4月に**「浜田山駅南口整備事業に関する設計等に関する協定書」**を締結し開設に向けての準備を進めていました。しかし同年6月の区長選挙で岸本区長が誕生する中で南口の建物はできたにもかかわらず、地権者との協議は不調になり、2023年1月区の経営会議で**南口開設を中断**すると決定したのです。

Q：この問題について田中さんはいかがお考えですか。
A：この問題は住民の**安全にかかわる重大な問題**です。既に建物も完成しており、あとは契約上の問題だけです。これを4年間も放置してきたということ自体許される問題ではありません。私が区長なら**直ちに地権者と協議して開設**します。

すぎ丸の持続的運営と南北交通の解決に向けて

Q：南北交通の解決と利便性の向上のために必要なことは何でしょうか。
A：杉並区の南北をつなぐ道路は狭く、その解決のためには都市計画道路の延伸や狭あい道路の整備がありますが、岸本区政の下では一向に進む気配はありません。そうした中で近年運転手不足からバスの減便を危ぶむ声も出てきています。私は次の方向で**南北交通の充実**を図っていくことが大切と考えています。
①生活路線であるすぎ丸の持続的運営の強化・バス会社と連携した運転手確保と経営強化。
②幹線道路の整備、特に都市計画道路の整備は重要です。
③狭あい道路の整備、電線の地中化の促進で道路の拡幅を図ります。
④交通不便地域でのお年寄りから子育て世代までが気軽に利用できるオンデマンド交通の推進。

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）3月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

新しいビジネスにチャレンジする人を全力応援！

杉並区は現在、多くの現役世代が住む都市として発展してきています。そこでの新しい産業振興策について田中良前区長に伺いました。

Q：若い世代がビジネスを行うためにどんな支援が必要でしょうか。

A：杉並区は都心へのアクセスのよい立地に恵まれています。福祉から子育て・教育、アニメやITなどの新しいコンテンツ、演劇、音楽、アートなどの分野で活躍する人たちが増加してきています。そうしたビジネスを起業する人たちを応援することが必要です。
起業する人々に必要なものは、資金と場所とチャンスと困ったときの相談です。私は次のような施策に取り組むことが必要と考えています。
①起業資金の拡充―使い勝手の良い制度に。「場所代補助枠」の拡大
②スタートアップオフィスを充実（商店街の空き店舗や空き家を活用したオフィスで事業をスタート）
③様々な分野のマッチングでチャンスを拡大（分野を超えた業種の交流とマッチングラボを開催）
④区内の商科系大学と連携して事業をフォロー

アニメや文化を通じた国際交流で新たな商機を創出！

Q：アニメ制作会社が日本一多いのは杉並区とのことですが本当ですか。アニメ振興のこれからのイメージをお聞かせください。

A：全国にある800を超えるアニメ制作会社のうち、140社以上が杉並区に集積しており、自治体として全国1位です。長年にわたり多くの制作会社やクリエイターが杉並に集まり、日本のアニメ文化を支えてきました。
例えば「ガンダム」シリーズは、杉並区の制作会社で誕生した作品です。また、「となりのトトロ」で知られる宮崎駿監督も杉並区の出身であり、杉並は日本のアニメ文化と深い関わりを持つまちです。
次の世代に残すべき杉並の財産は、こうしたアニメと文化の蓄積だと考えています。
①海外の交流都市（台湾、韓国、オーストラリア）と連携し、アニメを通した文化交流や人材交流を推進
②杉並アニメーションミュージアムを移転し、作品資料の保存・活用も担うアーカイブ機能を取り入れた国際アニメミュージアムの整備
③文化区杉並にふさわしい美術館の整備
④東京五輪でホストタウンをつとめた国々との文化・経済交流の窓口づくり

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）3月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

前杉並区長

田中良 サポーターズ通信 Vol.8

少子化対策を次のステージに！

杉並区の学童クラブ待機児童数は全国ワースト1位（子ども家庭庁調査）

皆さんご存じですか。杉並区の学童クラブ待機児数は、子ども家庭庁の全国調査（2025年5月）によればなんと全国ワースト1位になっています。杉並区の高齢化率は21％で、東京都平均23%、全国平均の28%に比べて極めて低くなっています。これはこの10年の子育て層の人口流入の影響です。それには、都心部への交通アクセスの良さと共に保育園の待機児ゼロや子ども・子育てプラザなど田中前区長時代の子育て政策の充実がありました。しかし現在の岸本区長の下で子育て環境に深刻な状況が生まれてきています。そこで前杉並区長の田中良さんに杉並区の子育て施策について伺いました。

中面へ

全国ワースト1位の学童クラブ待機児の解消を

増え続ける学童クラブ待機児童

――学童クラブの待機児が急増しています。その原因はどこにあると思いますか。

田中良：私は保育園の待機児童解消の取り組みの中で、次は学童クラブの希望者が急増すると予想しました。その受け皿として新たな用地を確保しての学童クラブ増設や児童館運営の見直しによる学童クラブスペースの拡充、学校の余裕教室の活用など、**地域ごとの事情にあわせた施設再編計画**を策定しました。

ところが岸本さんは区長選挙で、「施設再編計画は子どもから児童館を奪う児童館つぶしの計画」だとして、これを白紙撤回せよと叫ぶ方々と連帯していました。しかしそうは言ったものの実際には区長として何らの対案もなく、計画を白紙に戻すどころか、自ら児童館を廃止して一部区民から反発を受けました。

その後は「対話」と称した集会や新たな会議体を設置して答申を待つなどしていたのですが、その間にも待機児童は増え続け今日の事態を招いたわけです。

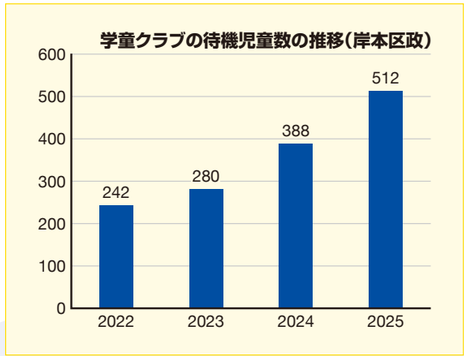
このように、**岸本区政の4年間は時間が無為に過ぎ、そのしわ寄せが子どもたちにきています。**私のところにも「何とか学童クラブを増やしてほしい」「新1年生のために3年生になったら学童を辞めて欲しい」と言われたという声も多数寄せられています。

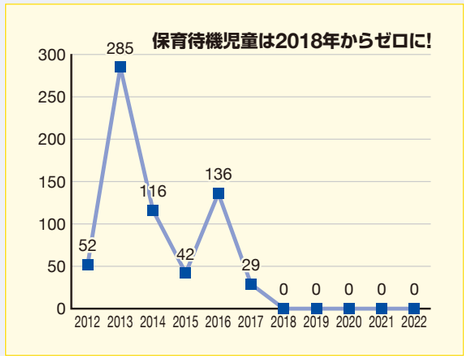
――田中さんだったら学童クラブの待機児の解消はできますか。

田中良：もちろんです。私は、区長時代にこのままでは翌年度に保育園待機児が560人になるといわれたときに直ちに**「緊急事態宣言」を出し、2年後には待機児ゼロを達成**しました。少なくとも2年で学童待機児童ゼロは可能なはずです。

そのためには東京都とも連携し民間事業者の参入を積極的に支援して受け皿を拡充し、保護者への負担軽減策も合わせて講じたら良いのです。

保育緊急事態宣言の際、私は自ら緊急対策本部長として保育課のフロアに自席を置き、毎日陣頭指揮を取りました。組織のトップには**絶対に成し遂げるという確固たる決意とリーダーシップ**が不可欠なのです。





なぜ、子ども・子育てプラザを作ったか

――昭和の時代と異なり核家族化が進行し、地域のコミュニティも希薄な今日では、育児や子育てで悩む若い世代が多いと聞きます。その意味で安心して働ける子育て環境の整備が重要なテーマになっています。この点、田中さんはどのようにお考えですか。

田中良：そのとおりですね。特に子育て中の方が一人で悩まないようにサポートすることが必要です。

乳幼児を連れて気軽に訪れ、子育ての悩みを話したり交流することのできるところが欲しいという要望に応え、私は在任中に**「子ども・子育てプラザ」**を作りました。それが好評で今では区内7カ所で運営されています。

こうした親の悩みや親同士の交流のサポートはもっと充実していく必要があります。

子ども・子育てプラザ善福寺

小児救急医療体制・病児保育の充実

――育児に関わった方が異口同音に言われることは子どもが病気になった時の対応です。この点、田中さんのお考えはいかがですか。

田中良：そうですね。いわゆる小児救急医療体制を構築するためには**一定数の医師や看護師などを常時確保しておくことが必要**です。そのためには予算の充実が必要です。

岸本区政は、河北総合病院が長年維持してきた小児救急医療から撤退した時、全く他人事のような対応でしたが、残念です。区としての判断があっても良かったと思いましたね。

また**病児保育も重要**で、医療機関との連携が不可欠です。現在、杉並区では5カ所で病児保育を行なっていますが、今後はこれをもっと拡充する必要があります。

合わせて東京都のベビーシッター利用支援事業などとも連携して自宅での病児の託児サービスの充実も大切です。

出産一時金の大幅増額と出産後の雇用復帰サポート

少子化対策と子育て支援策は別問題

――少子化対策の背景には、杉並区だけでなく、東京都ひいては日本全体が抱える構造的な問題があると思います。少子化対策の大きな課題は、出産にかかる費用と出産後の職場復帰です。この問題で躊躇する方も多いと聞いています。この課題についての田中さんのお考えをお聞かせください。

田中良：まずハッキリ認識すべきは、少子化対策と子育て支援策は関連するけれども目的が違うということです。給食費が有料だから子どもを産まないわけではありません。学校制服の費用負担が重いから子どもを産まないわけではありません。少子化の原因は女性の社会参画による晩婚晩産化なのです。

女性の初婚平均年齢は現在、約30歳、第一子出産平均年齢は31歳を超えました。従って少子化を改善するためには**20～30代で子供をもうけ育てようという若い世代を増やす政策**が必要です。

――結婚出産を望む若い人が、躊躇なくそうできる様にするためには何が必要ですか?

田中良：若い人ほど経済力が弱い。だから出産一時金を大幅に増額することは理にかなうと思います。岸田総理が増額してくれましたが、**更に自治体が上乗せすべき**です。インセンティブとして年齢が低い人ほど増額し、加えて第二子以降への増額もやるべきです。

また東京都に一極集中するのでなく、**若い世代が地方に留まって出産・子育てを選択できるような仕組みづくり**も必要です。

裏面へ

育児休業制度の充実と職場復帰しやすい環境づくりを

――働く女性が増え続けています。出産との両立という課題についてはどうですか?

田中良：男性の育児休業取得も当たり前になってきましたが、そもそも**育児休業制度をもっと充実させるべき**です。2年以上にすることはもちろん、給付金も増額するべきです。

それから、20代で出産子育てした方が、30代、40代で正規雇用が可能な雇用環境を作るべきです。つまり出産し、一定期間子育てをした方の職場復帰の課題です。私は以前から**20代で出産し、一定期間育児をした方が30～40代で正規の雇用で社会に復帰することができる制度**をこの杉並区から発信できないかと考えていました。そのような仕組みについて是非、東京都や杉並区の産業界や労働界などとも話してみたいと思っています。

子どもが小学校に入学するころに社会復帰するといってもパートなどの非正規雇用が今の我が国の主流ですが、これを抜本的に見直し、スキルアップをして正規雇用で社会に貢献していく、これこそが本当の生き方の多様な選択だと言えるのではないでしょうか。

もし東京都が始めたら影響は大きいと思います。要するに、**若いうちに結婚出産子育てを経験する方が、経済的にも豊かになり、自分のキャリアも伸ばせるのだと女性が思える社会**をつくることです。

また、今日では不妊治療も高度になっておりその費用負担も大変です。これらの分野は国も東京都も力を入れており、私も区長時代に妊娠期から出産・子育て期まで一貫して相談に応じ、支援につなげる取り組みを進めました。

その他、出産、子育て応援ギフトの増額なども積極的に考えていきたいと思います。

街づくりは、子育て目線で!

――最近、子育て中の男性からも、ベビーカー置き場の少なさや公共交通の利用しづらさなどの改善要望を聞きました。この点はいかがでしょうか。

田中良：そうですね。**子育てする方の目で街や施設の利用などを見直す**ことが大切です。

この点でいうとJRや私鉄のホームドアのセットも重要です。

またハードだけでなくソフトの分野でも男女問わず子育て世代が利用しやすいように講座や会合の曜日、時間などの設定も配慮する必要があると思います。

子育て世代が良いという街こそ、未来に希望を託せる街だと思います。だからこそ杉並区には流入してくる子育て世代を支える現実的な受け皿整備と共に、東京都とも連携し、**若い世代が将来を描ける社会モデルを先行的に示す**役割が求められています。

田中良
前杉並区長
プロフィール

昭和35年（1960年）・杉並区生まれ、杉並区育ち。
杉並ひまわり幼稚園～桃五小～獨協中・高～
明治大学政経学部卒。
テレビ東京入社後、
平成2年 衆院選に徒手空拳で出馬、落選。
平成3年 杉並区議選に当選。
平成5年 東京都議選に当選、以後連続5期当選。
平成21年 東京都議会議長就任。
平成22年 杉並区長に当選、以降3選。
令和4年 杉並区長選187票差で惜敗。
令和5年 著書「公文書に載らない東京都政と杉並区政」刊行。
自治体にまつわる様々な問題についてマスコミ等で発信中。

公式サイト

田中良サポーターズ公式

良さんの日常　instagram　良さん教えて！ホントの話　note

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）3月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

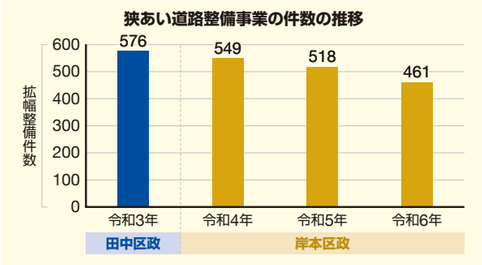
杉並区のインフラ整備は大丈夫なの？

杉並区では昨年、堀之内で擁壁が崩落し家屋が崩壊する事故が発生しました。また、今年になってからは連続して火災が発生し、死亡者も出ました。これらは私たちの生活が危険と隣り合わせであることを物語っています。そこで今回は、区民が安全に暮らすための道路などの整備と行政の責務について田中良前杉並区長に伺いました。

Q：田中さん、区内には消防車が通れない道路も多いですよね。こうした課題に行政はどのように取り組んでいるのですか。

A：**救急車や消防車が通れない道路の解消が急務**です。杉並区内には、道路の幅が4メートルに満たない狭あい道路が区内の道路の30%にのぼっています。こういった道路が集中しているところが木造密集地域、いわゆる「木密」と言われ、火災によるリスクが高い地域なのです。この狭あい道路を拡幅整備することは、災害時の対応は勿論のこと清掃車やデイサービスの送迎車の運行など、日常生活にとってもとても重要な課題なのです。

私は区長在職中、この**狭あい道路の解消を最重点課題の一つ**に掲げ、根拠条例の制定などに取り組んできましたが、現在の岸本区政になって整備件数は、大きく後退しています。



今こそ地域のリスクを総点検して、安心のまちづくりを！

Q：狭あい道路以外にもいろんなリスクがあると思います。こうした身近な危険とどのように向き合ったらよいのか、田中さんの考えを教えてください。

A：まず身近な危険がどこにあるのかを**地域の中で共有**する必要があります。

昨年崩落した堀之内のような**老朽化した擁壁やブロック塀がどこにあるのかを総点検**し、マップにして地域の中で共有したらいいと思います。またハードだけでなく**盗難や犯罪などの情報も共有化**して地域全体で注意していくことが大切です。

Q：こうしたリスク管理は、行政のリーダーシップが大切なのでしょうか。

A：その通りです。昨年の埼玉県の八潮の事故、最近の大阪の地下埋設物の突起事故などを受けて、多くの区民の方から「杉並区は大丈夫なの?」といった声が寄せられています。行政の長は、こうした**リスクと真正面から向き合い緊張感を持って取り組むことが必要**だと思います。

区内の道路や橋梁、施設なども多くは老朽化しています。まずは区が**「インフラリスク対策本部」**を設置し、区内の危険個所を総点検して、対策を講じる必要があると思います。

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）4月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

介護人材不足への対応を放棄状態の現区政

皆さんご存じですか。昨年の杉並区の100歳人口は452人です。45年前の1980年はわずか5人でした。時代は着実に人生百年時代を迎えつつあります。そこで今回は、誰もが安心して住み続けられる杉並区の高齢者福祉について田中良前杉並区長に伺いました。

Q：田中さん、高齢者福祉の最大の課題は何でしょうか。

A：要介護状態になったときに**スムーズに特別養護老人ホームに入れる施設の整備**です。私が区長になったときの特養ホームの入所希望者の待機期間は1年半でした。そこで特養の整備に取り組み、**ベッド数を約1100床増加**し、要介護3以上の切迫した方の待機者を解消しました。

Q：ところが最近ではその待機者が増加してきていると聞きます。この4年間の現区政の問題はどこにあるのでしょうか。

A：大きく二つあります。一つ目は、**介護人材の確保が後手に回っています**。せっかく整備した特養が介護職員不足で、稼働率が低下してきています。

二つ目は介護について、要介護認定を申請してから認定通知を受け取るまでの期間が法定期間（原則30日以内）を上回るなど、**介護ニーズの増加に対応した仕組みが目詰まりを起こしています**。この問題に対して現区政は、区議会で厳しく指摘されてきたにもかかわらず対応に緊迫感が感じられません。

今こそ将来を見据え、安心の福祉のまちづくりを！

Q：現区政の福祉の後退はひどいですね。区民意向調査では区民の評価が最も低い施策に障がい者福祉がランクされています。残念でなりません。こうした中、人生百年時代を見据えた田中さんのプランを教えてください。

A：区政の基本は区民福祉の向上にあります。そこで将来を見据え次の方向で取り組んでいきたいと考えます。

何よりも必要なことは福祉人材の確保です。また高齢者の就労確保などの課題にも取り組むことが必要です。

- **■福祉人材の育成と確保を目指し、杉並福祉人材育成学校を設立**
- **■特養待機者ゼロの確保と質の向上**
- **■ICTを活用した単身高齢者の見守り、高齢者のオンデマンド交通の推進**
- **■年金だけでは生活出来ない高齢者の就労支援強化**
- **■親亡き後の障がい者対策、就労の確保**
- **■障がい者のスポーツ拠点の整備**

Q：こうした施策の実現には、区長のリーダーシップが大切なのでしょうか。

A：その通りです。最近、多くの区民の方から「このままで杉並区は大丈夫なの?」といった声が寄せられています。

区長に必要なことは将来を見据え、自らリーダーシップを発揮し、課題と真正面から向き合い取り組むことです。すべては**「実行力」**に尽きると思います。

国有地を活用して田中区政で整備した全室個室の区内最大級の特養ホーム「フェニックス杉並」

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）4月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

前杉並区長

田中良 サポーターズ通信

杉並の勇気

Vol.11

【テーマ】

憲法記念日に「憲法」を考える

――憲法記念日を迎えて田中良さんの「憲法観」を聞かせてください。

田中良：戦後81年、憲法施行79年になりました。

裏面に記載した文章は、私が区長1期3年目の平成25年、杉並区議会で共産党所属の区議から憲法改正について質問された際に答弁した議事録です。

私の「憲法観」は当時と変わっていませんのでご一読いただければ幸いです。

裏面へ

友だち追加をお願いします!

杉並区政や地域の話

公式LINE

YouTube

田中良サポーターズ公式

田中良 区政の実績（一部抜粋）

1. 保育施設の整備…5年連続待機児童ゼロ!
2. 区立小・中学校全校にエアコン設置
3. 3.11被災した南相馬市支援の為、自治体スクラム支援会議を結成
4. コロナ禍で全国初! 病院への直接支援で100床確保
5. 河北総合病院・杉一小の移転改築計画推進
6. 旧・近衛文麿邸「荻外荘公園」の復元・整備
7. 農福連携「すぎのこ農園」の開園、都市農地の振興

世代の責任を果たそう

プロフィール
昭和35年（1960年）・杉並区生まれ、杉並区育ち。
杉並ひまわり幼稚園～桃五小～獨協中・高～明治大学政経学部卒。
テレビ東京入社後、
平成2年 衆院選に徒手空拳で出馬、落選。
平成3年 杉並区議選に当選。
平成5年 東京都議選に当選、以後連続5期当選。
平成21年 東京都議会議長就任。
平成22年 杉並区長に当選、以降3選。
令和4年 杉並区長選187票差で惜敗。
令和5年 著書「公文書に載らない東京都政と杉並区政」刊行。
自治体にまつわる様々な問題についてマスコミ等で発信中。

公式サイト

田中前区長 1期3年目（平成25年）の議事録より抜粋

次に、憲法についてのお尋ねにお答えをいたします。

憲法は、国の形を示し、また国民の意思をあらわす最高位の法規範であることから、**仮に改憲するのであれば、広範な国民的議論と深い合意形成が求められる**ものであります。それだけの慎重さが必要であると、考えております。

私は基礎自治体の首長として、法律等を遵守する立場から考えた場合に、軽々に改憲すべきとか、あるいは守るべきといったような見解を申し述べることは差し控えたいとは思っております。また、そうあるべきだと思っておりますが、今の憲法が制定をされたときに、政党として唯一反対票を投じた共産党の代表質問なので、私なりの憲法観は、あえてこの場で申し上げておきたいと思います。

私は、**憲法が制定をされた時代状況、これを十分に考える必要がある**と思っております。押しつけ改憲論というのは昔ながらございますけれども、今の憲法が制定された時代状況というのはどういう状況であったか。

さきの大戦では、日本人だけでも300万人、400万人の犠牲が出ました。また、世界規模では3,000万人とも4,000万人とも、その数字が定かにならないほどの莫大な被害、犠牲者がありました。親を失った子ども、子どもを失った親、友人、兄弟を失った人々、仕事、財産を失った人々、また、この過程ではさまざまな問題も国民の生活にはありました。宗教弾圧もありましたし、言論弾圧もありました。そういった中で、たとえ占領下であったとしても、私は、その占領下で世論誘導があったにせよ、当時、国民は敗戦によって初めてさまざまな事実を知らされ、その中で**国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、この3大理念を標榜する今の憲法に対して、新たな国の再建・再興を誓い、希望を抱き、多くの国民が賛同した**ということも事実ではなかったかと思っております。

のど元過ぎれば熱さを忘れてしまうというようなことがないように、私たちは**今後もそういった歴史は継承していかなければならない**と考えております。

憲法改正が上程をされた第90回帝国議会、敗戦から1年たったころの議会であります。最長老の国会議員が登壇いたしました。国会に胸像が掲げられておりますが、当時94歳、第1回総選挙から連続25回当選をした**尾崎行雄**であります。その尾崎行雄は、このとき登壇をして、憲法に賛意を示しつつ、有名な演説をいたしました。それを簡単に今ご紹介いたします。

「憲法について必要なのは、条文の良し悪しより、その運用である。

改正案に比すればはるかに劣っていたこれまでの憲法――このこれまでの憲法というのは明治憲法のことですが、我が国が十分に実行し得ない結果が今日の未曾有の国辱となってあらわれた。あの憲法が正当に行われておるならば、今日のごとき大屈辱に遭遇せぬはずであった。

今日制定せられぬとする憲法は、かに比して非常に優れている。しかし、優れていればいるほど、知識、道徳の低い我が国人民には実行困難なことを覚悟しておかなければならない。良い憲法さえつくれば国が良くなるだろうという軽率な考えを持ってもしも賛成をするならば、それは大きな間違いである。憲法で国が救われるなら、世界中で滅びる国はない。良い憲法をつくることは容易だが、実行は非常に難しい。」

また、ベルリンの壁が崩壊し、新たに東西ドイツが統一を果たしたときに、当時の首脳がこういう言葉を残しました。**過去に目をそらす者は未来に対しても盲目である**と。

先人が残したこういった言葉の中の深い意味を次の世代がどう噛みしめて、次の時代をつくるためにさまざまな議論をするかということが大事なことだろうと思っております。

――田中良さんの「憲法観」は変わっていないということですね。

田中良：今から13年前ですので、内外ともに諸情勢は大きく変わりましたが、**私の憲法観は全く変わっていません。**

――有難うございました。

衆議院に設置されている
尾崎行雄 胸像

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）5月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com

前杉並区長

田中良 サポーターズ通信 Vol.12

これで良いのか！ 杉並区の道路の整備

区民生活と安心・安全に欠かせない道路整備

今年になって杉並区内で連続して火災が発生し、お亡くなりになった方も出ました。

実は杉並区の道路の約3割が消防車や救急車がスムーズに通れない幅員4m未満の狭あい道路であることをご存じですか。また杉並区は南北間の道路が脆弱で、防災上や交通の利便性からも道路の整備が懸案になっています。

そこで今回は、道路整備と行政の責務について田中良前杉並区長に伺いました。

中面へ

※写真はイメージです

区民生活と安心・安全に欠かせない道路整備

――田中さんは、区民の安全についてどのようにお考えですか。

田中良：私は、区民の皆さんが暮らしていく上でのリスクは、大別すると次の3つだと思っています。
①首都直下型地震や都市型水害などの自然災害
②日常生活の中で発生する火災や犯罪など
③老朽化した施設やインフラに伴う事故、のリスクです。

――こうしたリスクに関連して、杉並区で取り組むべき分野は何でしょうか。

田中良：先ずは道路の整備です。杉並区の場合、青梅街道、環状7号線、環状8号線などの幹線道路間の道路が狭く、救急車や消防車が迅速に駆け付けることが困難な地域があります。それらの多くは木造密集地域で、**火災によるリスクが高い地域**なのです。

その解決のために、私は区長在職中に**全国初の狭あい道路の拡幅条例**を作りました。また都市計画道路についても災害時のことを考え東京都に優先整備路線への指定を働きかけてきました。

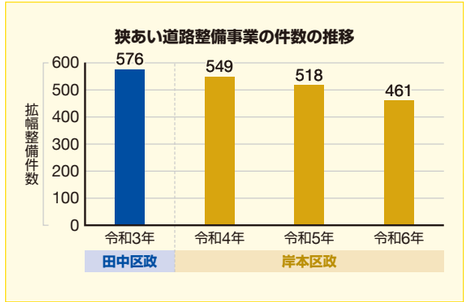
――現在の岸本区政では、その対策は引き継がれているのでしょうか。

田中良：残念ながら不充分だと思います。狭あい道路の拡幅整備については私の退任後、**年々整備件数が落ち込んでいます。**

――狭あい道路を拡幅するとどの様なメリットがあるのですか?

田中良：第一に救急車、消防車が入れる様になります。また、デイサービスの送迎車も玄関前につけられます。

更に**パッカー車**という清掃車でのゴミ収集が可能になります。木造密集地域のゴミ収集は軽トラの清掃車で行なっています。**パッカー車は軽トラの最低でも5台分のゴミを飲み込める**のです。軽トラは運転手含めて作業員2人体制で、パッカー車は3人ですから、狭あい道路が完全解消して全てパッカー車で作業可能になれば、軽トラ5台と作業員10人でやるところを、パッカー車1台と作業員3人で可能になるわけです。



広がる岸本区政への失望

――まさに安全性も行政効率も向上し、暮らしやすくなりますね。都市計画道路についての岸本区政はいかがでしょうか?

田中良：都市計画道路についても屋上屋を架す様なわかりきった調査や、「対話」を隠れ蓑にただ**時間を浪費するばかり**です。

――岸本区長は、そもそも都市計画道路の整備を積極的に行おうという考えがないのではないでしょうか。
実は杉並区の広報チャンネルで岸本区長の「都市計

画道路について」を見てびっくりしました。これは行政組織の代表ではなく市民活動家のコメントそのものですね。

その中には「木造密集地の多い地域では、大分県のような大変な火災が起きることはわかるものの、住民の合意がない中では道路の整備はやらせません」「道路を作るかどうかではなく住民自治の形成が目的です」といったくだりがあるのです。このような区長の下でもし首都直下型地震が起きたらと考えるとぞっとしました。これについて田中さんはいかがお考えですか。

田中良：その点について、東京都や特別区の行政に詳しい「都政新報」は、次のように報道しています。

優先整備路線の整備効果を見れば、区の検証結果は都などが抽出したものとほぼ同様、必要性の優先順位が高い結果。

しかし、道路は「効果」だけでは決められない――という岸本区長の見解について、都庁方面から次のような失望する声が聞かれる。

「就任から4年たった今もなお、住民との『対話』で防災まちづくりをするとして区としての代替案を示していない」

「現区長の支持政党にとっては反対運動をあおって手を付けさせないことが勝利。今の区政では大災害が来て惨事に見舞われない限り、防災性の向上は期待できない。」

（都政新報4月1日号）

田中良：これは都市計画道路だけでなく水害対策の河川改修についても同様です。

このような区の姿勢に今、東京都のみならず多くの関係機関が憂慮しています。

――行政としての取り組む姿勢が先送りのみとは困りますね。

そこで田中さんにお聞きします。杉並区のリスクマネジメントは、いかにあるべきだとお考えですか。

田中良：私は、**危機管理の責任は、トップのリーダーシップにある**と考えています。

トップが区民の安全のために何が必要なのか、そのためにできることは何なのかという方針を明確に示す必要があります。それに基づき「やり抜く」という決意と指導力が不可欠です。

都市計画道路は何十年と続く事業

――ところで都市計画道路についていえば何十年も前に作られた計画をどうして今やらなくてはいけないのかということがよく言われます。

岸本さんも一旦立ち止まって、と前回の選挙の際に言っていましたが、その点はいかがでしょうか。

田中良：まずは都市計画道路などは実現までに何年もかかります。事業化計画を立て、地元説明会を行い、用地の買収など、その積み重ねで進めていく。本当に**何年、何十年とかかるのが実情**です。

――こうした時間経過の中で時代の変化によって当初の目的がなくなったら見直すことはあるのですか。

田中良：あります。東京都は都市計画道路の優先整備を10年ごとに見直しており、その都度効果検証を行って来ました。

今回杉並区は、東京都の検証に加えて区独自で効果検証を行いました。その結果いずれも必要性が実証されました。はじめからわかりきったことに**時間と税金を浪費しただけ**のことですが。

――ところが岸本区長は、それはそれとして、道路ありきではなく、まずは区民との対話が必要だとして「デザイン会議」なる会議体を設置しました。それはどの様な意義があるのでしょうか？

田中良：この会議は何かを決定しその責任を区が持つというものではありません。

道路整備というものは抽象論ではなく個々の具体的な生活問題なのです。立ち退きに応じて頂く為には行政も当事者にリスクを負わせない最大限の努力が必要です。区長として、防災や交通など公共の観点から必要性を認識したならば、その実現のために、誠意を持って地域の皆さんにご理解とご協力をお願いするのが筋です。

岸本さんは、他の選択肢があるかのように常に自分の立場を曖昧にしてそれを「対話」と称しています。本当に次世代の為を思うならば、**自分が批判にさらされてもやり抜くのだというトップの姿勢が不可欠**です。それがないと組織も本気になりません。それが世代の責任なのです。

現在の中杉通りも早稲田通りから区役所前までの整備で何十年と要した。
かっては阿佐谷から鷺宮方面のバスは狭い松山通りを通っていた。

裏面へ

公共の福祉と個人の幸福追求の権利

――よく、「今住んでいる環境が良いので何も道路の拡幅や整備は必要ない」という方がいますね。こうした個々の意見と全体の公共性との関係はどのように考えればよいのでしょうか。

田中良：なぜ皆さんは都市生活の利便性を享受出来ているのでしょうか。コンビニへ行けば24時間好きなものを買えますね。**その物流を可能にしているのが道路というインフラ**です。

例えば環八通りは、私が子供の頃は全くの住宅地でした。それらの土地を買収し造った道なのです。土地買収にご協力いただいた方からみれば、**本来はみんなで分かち合うべき負担だ**、と言いたいはずです。

――なるほど。都市生活の恩恵は受けたいが負担を分かち合うのは嫌だ、というのは虫がよすぎるということですね。

田中良：前回の選挙の時にも「道路の拡幅など必要ない。今のままでよい」と私に怒鳴り込んできた方がいました。しかし、こうした方でも**誰かの協力や犠牲によって造られた道路で運ばれてきた物を買い、暮らしている**のです。

言い換えれば、公共の福祉と個人の幸福追求との衝突です。**道路は最も多くの人がその利用によって恩恵を受ける公共財**です。その道路を拡幅して整備することで、輸送などの利便性が向上し、救急車や消防車などがスムーズに通行でき、ひいては災害などにも大きく寄与することとなります。都市基盤の基本ともいうべきものです。

杉並区は、10数年前に比べ人口が10%増加し、今や60万人に届こうとしています。また人生100年時代の長寿社会では、車いすでの歩行など人にやさしい道路が求められています。

それは子育て世代も同じで、ベビーカーで安心して出かけるためにも歩道を含めて道路の幅員は必要なのです。

今だけ、自分だけという価値観とは一線を画し、**未来に向けてのまちづくりを目指すこと**こそ本来の行政の長たるものの責任だと私は考えます。

田中良
前杉並区長
プロフィール

昭和35年（1960年）・杉並区生まれ、杉並区育ち。
杉並ひまわり幼稚園～桃五小～獨協中・高～
明治大学政経学部卒。
テレビ東京入社後、
平成2年 衆院選に徒手空拳で出馬、落選。
平成3年 杉並区議選に当選。
平成5年 東京都議選に当選、以後連続5期当選。
平成21年 東京都議会議長就任。
平成22年 杉並区長に当選、以降3選。
令和4年 杉並区長選187票差で惜敗。
令和5年 著書「公文書に載らない東京都政と杉並区政」刊行。
自治体にまつわる様々な問題についてマスコミ等で発信中。

公式サイト

田中良サポーターズ公式

友だち追加をお願いします！
公式LINE
杉並区政や地域の話
YouTube

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）5月　〒167-0043 杉並区上荻1-9-1 荻窪タウンセブンD棟1F
TEL／03-3301-3301　FAX／050-3537-2249　Mail／ryotanaka1960@gmail.com